

《 経 営 理 念 》

社会福祉法人東京都福祉事業協会は、人の幸せを求めて事業に取り組んでまいります。

それは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支える職員の幸せです。

《 経 営 方 針 》

1. 利用者一人ひとりの人格を尊重します。
2. 利用者の安全を確保し、その特性を大切にして、豊かな人間性を持った希望のもてる生活ができるように支援します。
3. 地域の人々との共生を重んじ、明るい街づくりに努めます。
4. 時代の要請をよく受け止め、利用者に選ばれる事業の実施に努めます。
5. 健全経営の実現を常に念頭に置き、効率的な施設経営体の確立に努めます。
6. 協会の事業を推進するため、職員の資質向上と働きやすい環境改善に努めます。
7. 職員一人ひとり、社会人としての自覚を持ち、関係法令を遵守するとともに、自己研鑽に励み、各自役割を認識し、その権限と責任を組織一体となつて的確に果たしていくように努めます。

《 施 設 種 別 経 営 目 標 》

<保育所>

1. 事業・経営収支関係

- ① 経営の健全化を目指し、収支バランスの維持及び堅調な財政状態の確保に努めます。
- ② 施設有効活用の観点から踏まえた定員確保のため、利用者ニーズの把握とサービスの充実に努めます。
- ③ 保育に支障がないよう、処遇上必要な施設建物設備の維持改善に努めます。

なお、指定管理者施設については、区に対し、整備を要請するなど連携を密にします。

2. 運営・処遇・業務関係

- ① 一人ひとりの子どもの最善の保育を考慮し、子どもの個性を十分伸ばして、豊かな人間性が育つよう援助します。
- ② 地域の人々や関係機関とともに、子育ての楽しさや大切さを共有し、地域の子育て家庭を支援します。
- ③ 保育サービスの質の向上のため、協会内他施設との情報交換等連携を強め、また、保育士等職員の資質向上及び経営参画意欲醸成に資するよう、研修の充実に努めます。
- ④ 認定こども園等の情報収集に努め、目指すべき保育を検討します。

<母子生活支援施設>

1. 事業・経営収支関係

- ① 経営の健全化を目指し、収支バランスの維持及び堅調な財政状態の確保に努めます。
- ② 定員確保のため、利用者ニーズに応え、区、福祉事務所への積極的な働き掛けを行います。
- ③ 利用者の生活に支障がないよう施設建物設備の維持改善に努めます。

なお、指定管理者施設については、区に対し、整備を要請するなど連携を密にします。

2. 運営・処遇・業務関係

- ① 利用者の自立に向けての支援を積極的に行うため、社会資源の活用等により意欲の向上に努めます。
- ② 福祉施設としてもつ機能を活用し、地域住民との交流に努めます。
- ③ 利用者支援の資質向上のため、協会内他施設との情報交換等連携を強め、また、職員の資質向上及び経営参画意欲醸成に資するよう、研修の充実に努めます。

<高齢者福祉施設等>

1. 事業・経営収支関係

- ① 経営の健全化を目指し、収支バランスの維持及び堅調な財政状態の確保に努めます。
- ② 施設有効活用の観点を踏まえ、利用率の向上を目指し、利用者ニーズに応えるとともに、サービスの充実に努めます。
- ③ 施設内の整理整頓など生活環境の向上、事務効率化の推進に取り組めます。
- ④ 利用者の生活に支障がないよう施設建物設備の維持改善に努めます。
なお、指定管理者施設については、区（市）に対し、整備を要請するなど連携を密にします。

2. 運営・処遇・業務関係

- ① 利用者への福祉サービス充実のため、残存能力活用、自立援助、介護事故防止等への積極的かつ周到的な取り組みを行います。
- ② 福祉施設として持つ機能を活用し、地域福祉の向上に努めます。
- ③ 福祉サービスの質の向上のため、協会内他施設との情報交換等連携を強め、また、職員の資質向上及び経営参画意欲醸成のため、研修の充実に努めます。

《 事 業 計 画 》

「経営理念」「経営方針」を踏まえ、法人本部と各施設とが一体となって地域社会のニーズや福祉諸制度の動向を見究めつつ、各施設種別毎に定めた「経営目標」に沿って、各種事業を着実に推進していく。

本年度においては、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底に関し施設と連携しながら取り組むとともに、会議や研修の新たな開催方法について検討を行う。

また、「内部管理体制の基本方針」（平成 30 年 6 月 11 日理事会決定）に基づく協会内管理体制の検証等を進めるとともに、引き続き高齢者施設及び事業の収支健全化に努める。

なお、前年度に計画していた事業について、新型コロナウイルス感染症対応等による業務の優先から検討途中のものについては、引き続き具体化に向けて推し進めていくこととする。

1. 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し事業を継続するため、国・都・各区市の感染防止対策に関する諸通知を踏まえ、施設との連携を密にし確実に取り組むこととする。万一、感染者が発生した場合の協会内施設間相互による支援体制及び関係団体の広域応援体制により、管轄の保健所や自治体と連携を図りながら事業継続に万全を期すこととする。

まずは、特別養護老人ホーム利用者及び職員等に予定されている新型コロナウイルス PCR 検査やワクチン接種が、遅滞なく且つ漏れなく実施されるよう取り組むとともに、他の事業においても遅滞することなく、職員のワクチン接種を励行し、園児や利用者が安心して利用できる体制づくりを進める。

2. 事業継続計画（BCP）の再構築

新型コロナウイルス感染発生時や災害発生時に対応する事業継続計画（BCP）について、本部及び各施設について検証及び再構築を行い、危機管理及び安全管理の強化に努める。

3. ガバナンスの強化

適正な施設運営のため、法人本部による施設監査（①法令遵守、②個人情報保護、③リスクマネジメント、④電子機器セキュリティ、⑤業務の効率化等）を行い、本部と各施設との情報・課題の共有及び解決に努めることとする。

また、平成 30 年度から設置した会計監査人による法人本部及び各施設への監査及びその助言等を踏まえ、会計経理の適正な処理を確保し財務規律の強化を図る。

4. 人材確保

保育士、介護職員等の採用については、本部と施設の連携を密にし、ハローワーク、都人材センター、新聞折込広告、インターネット求人等に加え、地域の潜在的有資格者を対象にした広告等を積極的に行う。また、職員による紹介制度も積極的に活用する。

上記とともに、協会の PR 方法等について、よりわかりやすく魅力のある求人内容となるよう検討するとともに、経験及び年齢のバランスを踏まえ若手職員の積極的な採用に努める。

なお、高齢者施設では、外国人採用や未経験の就労希望者に対しても検討を行う。

5. 全施設の収支健全化

これまで、高齢者施設での介護報酬改定等により、特養やデイサービスで厳しい収支状況となっていたが、最近では、保育所・母子生活支援施設においても赤字もしくは赤字が心配される収支状況が見られるようになった。

保育所においては、待機児童の解消に伴う受け入れ園児数の変化に注視しつつ中長期的視野のもと収支両面での分析を行い収支健全化を目指す。

母子生活支援施設については、入所の適正な確保を念頭に関係機関との調整を図る。

高齢者施設の長寿園及び赤羽北さくら荘特養については、新規利用者の円滑な受入れを確保する一方で、利用者の快適な生活の維持に努め、収支状況改善の一つである稼働率の向上に努める。

赤羽北さくら荘・東日暮里サービスセンター・サービスセンター長沼の各デイ

サービスについては、全職員による利用者増に向けたプログラムの充実及び営業活動（ケアマネ事業所へのアプローチ、施設通信・チラシの配布、ホームページの充実）を実施する。

また、令和3年度の介護報酬改定等の内容を精査し具体的な事業運営の検討・見直しを行っていく。

6. 新保育指針への取り組み

保育所における保育内容については、新保育所保育指針を踏まえた保育所の機能及び質の向上を図るため、より具体的な実施方法について、引き続き先駆的施設の情報収集や研修等を行う。

（改定内容）

- ① 乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載の充実
- ② 保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ
- ③ 子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえた健康及び安全の記載の見直し
- ④ 保護者・家庭及び地域と連携した子育て支援の必要性
- ⑤ 職員の資質・専門性の向上

7. 職員研修の充実

これまで研修は、新規採用職員研修、中堅職員研修、管理職研修を実施してきたが、これとは別に、①各事業の専門的援助技術、②職員の定着のためのコミュニケーションスキル、③防災・防犯、④リスクマネジメント、⑤調理に係る衛生管理、⑥労働安全衛生等について研修内容の一層の充実を図ることとする。

保育所及び母子生活支援施設においては処遇改善加算に係るキャリアパス研修について積極的に受講することとする。

また、協会職員の日常業務活動における課題等の改善・解決への取組みについて「実践研修報告会」、「ケース検討研修会」を開催することを目指す。

協会が主催する研修等について、インターネットによる方法等を含めその実施方法を検討し具体化していく。

8. 業務の効率的かつ効果的な改善（介護ロボット等導入への検討）等

情報通信、介護ロボット等の技術革新により、福祉分野においても処遇面の充実、労働環境の改善、さらには人材不足への対応といったことから、その導入が期待されている。

これらの最先端技術の情報収集を行ってきたが、本年度は、どの分野にどのような機器の導入を図ることがより安全で効率的・効果的かといった福祉機器の活用のあり方について検討する。

また、併せて給与事務・勤務時間管理等に係るより効率的な事務処理体制についても引き続き検討する。

9. 定年 70 歳に向けての検討

本年 4 月から 70 歳までの就業機会の確保が事業主の努力義務とされたことを踏まえ、弾力的な就業形態や定年の見直しについて検討する。

その際、各施設における人件費の将来見直しを行い、必要に応じて協会全体の給与体系、給与水準の見直しを検討する。

10. 老朽改築整備の検討

特養長寿園（定員 80 名）については、利用者の安全性、快適性を確保するため、昨年度から継続されている改修工事等を行う。

王子隣保館保育園（定員 110 名）については、全面改築整備に向けて、財源、立地場所、保育需要動向等諸課題の検討を行う。

11. 協会機関誌「ひだまり」の発行

協会職員間の一層の情報共有等を図るため、各施設の行事や日々の活動、地域貢献等の報告、協会のトピックス等を掲載する協会機関誌「ひだまり」を定期的に発行することとする。

12. 理事会の開催

3年 6月	2年度事業報告・収支決算
3年 10月頃	3年度事業中間報告、補正予算
4年 3月	4年度事業計画・収支予算、3年度補正予算
随時開催	運営上の必要に応じて随時開催

13. 評議員会の開催

3年 6月	2年度事業報告・収支決算
3年 10月頃	3年度事業中間報告、補正予算
4年 3月	4年度事業計画・収支予算、3年度補正予算
随時開催	運営上の必要に応じて随時開催

14. 定例法人本部幹部会議

理事長、常務理事、法人本部幹部職員により毎週1回開催する。

15. 定例施設長会議

理事長、常務理事、各施設長、法人本部幹部職員が出席して毎月1回（原則として第1月曜日）開催する。

16. 施設・事業の運営

令和 3 年度当法人の運営する施設・事業は次のとおりであり、その各施設毎の個別具体的な利用者サービスへの取り組みについては、後述する各施設毎の事業計画のとおりである。

【保育所】

	直営施設					指定管理		計
	王子 隣保館 保育園	方南 隣保館 保育園	尾久 隣保館 保育園	八王子 隣保館 保育園	赤羽北 のぞみ 保育園	汐入と ちのき 保育園	上十条 南保育 園	
定員 (認可 定員)	122 (110)	132 (130)	197 (190)	84 (80)	100 (100)	124 (110)	112 (110)	871 (830)
現員	119	132	187	84	104	124	111	867
職員数	50 (40.8)	41 (38.3)	50 (47.0)	33 (28.2)	38 (32.2)	46 (35.4)	44 (38.7)	302 (260.6)

注 1：現員及び職員数（非常勤含む）は令和 3 年 2 月 1 日現在、職員数欄の（ ）については常勤換算数

【母子生活支援施設】

施設	定員	現員	職員数	備考
ハイツ尾竹	20 世帯・64	18 世帯・41	19 (17.3)	直営施設
浮間ハイマート	24 世帯・72	8 世帯・21	12 (9.1)	指定管理
板橋区立母子生活支援施設	20 世帯・60	17 世帯・41	13 (11.7)	
計	64 世帯・196	43 世帯・103	34 (38.1)	—

注 1：現員及び職員数（非常勤含む）は令和 3 年 2 月 1 日現在、（ ）については常勤換算数

注 2：ハイツ尾竹は定員の他にショートステイ 3 名（受託事業）

注 3：浮間ハイマートは定員の他に緊急一時保護 2 世帯

注 4：板橋立母子生活支援施設は定員の他に緊急一時保護 2 世帯

【高齢者福祉施設等】

(1) 特別養護老人ホーム

施設	定員	現員	職員数	備考
長寿園(特養)	80	68	61 (48.5)	直営施設
ショートステイ	2	0		
赤羽北さくら荘(特養)	148	140	109 (97.5)	
ショートステイ	12	12		
計	242	220	170 (146.0)	—

注：現員及び職員数（非常勤含む）は令和3年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

(2) デイサービス

施設	定員	現員	職員数	備考
赤羽北さくら荘デイサービスセンター				赤羽北さくら荘に併設、直営施設
通所介護（一般型）	35	24.7	19 (18.2)	
通所介護（認知症型）	12	4.4		
東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター				指定管理、単独施設
通所介護（一般型）	40	25	35 (24.2)	
通所介護（認知症型）	12	6		
高齢者在宅サービスセンター長沼				
通所介護（一般型）	35	27.3	40 (27.6)	
通所介護（認知症型）	12	5.6		

注1：現員は令和3年2月1日を含む週の利用平均、職員数（非常勤含む）は令和3年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

注2：赤羽北さくら荘のセンター長は特養施設長が兼務（職員数に含まず）

(3) 地域包括支援センター (受託事業)

施設	職員数	備考
地域包括支援センター長沼	10 (9.2)	高齢者在宅サービスセンター 長沼に併設
浮間地域包括支援センター	9 (7.5)	赤羽北さくら荘に所属
赤羽北地域包括支援センター	9 (7.5)	

注1：職員数（非常勤含む）は令和3年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

注2：当事業のセンター長は各施設の施設長・センター長が兼務（職員数に含まず）

(4) 居宅介護支援 (直営事業)

施設	定員	職員数	備考
赤羽北さくら荘ケアプランセンター	117	3 (3.0)	赤羽北さくら荘に併設
居宅介護支援事業所長沼	105	3 (3.0)	高齢者在宅サービス センター長沼に併設

注：職員数（非常勤含む）は令和3年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

(5) 訪問介護 (直営事業)

施設	利用対象者	職員数	備考
赤羽北さくら荘ホームヘルパーステーション	担当地域内 居住者	20 以内	赤羽北さくら荘に 併設

【放課後児童健全育成事業】（受託事業）

施 設	定員	現員	職員数	備 考
三日小学童クラブ	70	63	16 (7.8)	第三日暮里小学校 校内
放課後子ども教室 (にこにこすくーる)	登録者数 131	9.8		

注 1：現員及び職員数（非常勤含む）は令和 3 年 2 月 1 日現在、（ ）については常勤換算数

注 2：放課後子ども教室の現員については令和 3 年 2 月 1 日を含む週の利用平均